



三月(大) 弥生 井宿

三月六日啓蟄の節より
月命乙卯七赤金星の月
暗剣殺西の方

旧 二月大
閏二月小

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	共貫	下段
1日	水	つちのえうま	一白	旧初午、宮城若沼竹駒神社初午祭、一粒万倍日、奈良東大寺二月堂修二会、不成就日 但二月大		十	大安	さだん	参	神よし
2日	木	つちのひつじ	二黒	春の全国火災予防運動(1日〜7日)		十一	赤口	とる	井	神よし
3日	金	かえさる	三碧	ひな祭、耳の日、庚申		十二	先勝	やぶる	鬼	大みょう
4日	土	かのとり	四緑	新潟浦佐押合祭		十三	友引	あやぶ	柳	十し
5日	日	みづのえいぬ	五黄			十四	先負	なる	星	●
6日	月	みづのとみ	六白	啓蟄五時三六分、旧ねはん会、八せん終り		十五	佛滅	なる	張	母倉
7日	火	きのえ	七赤	○望二一時四〇分、消防記念日、甲子		十六	大安	おさん	翼	百事よし
8日	水	きのとうし	八白	国際婦人デー		十七	赤口	ひらく	軫	天おん
9日	木	ひのえとら	九紫	茨城鹿島神宮祭頭祭、三隣亡、一粒万倍日、不成就日		十八	先勝	とづ	角	天おん
10日	金	ひのと	一白	塩竈神社帆手祭		十九	友引	たつ	亢	天おん
11日	土	つちのえたつ	二黒	近江八幡左義長祭		廿	先負	のぞく	氏	●
12日	日	つちのとみ	三碧	奈良東大寺二月堂お水取り、己巳		廿一	佛滅	みつ	房	十し
13日	月	かえうま	四緑	旧二の午、奈良春日大社祭、大つち		廿二	大安	たいら	心	大くわ
14日	火	かのひつじ	五黄			廿三	赤口	さだん	尾	大みょう

春らしい陽気の日があると思うと、急に真冬に立ち返ったような寒い日もある月で、気温だけであく天候も激しい変わり方をする。関西では、十二日の奈良のお水取りが終わらないと春がやって来ない、と言ひ伝えられ、一方、暑さ寒さも彼岸までと言ふことわざのあるのが、気温の不安定さを物語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節句」である。もともと「上巳の節句」といつたもので、これが桃の節句や、雛の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしく、現在のようになつたのは近年の子が初めて迎える桃の節句を「初節句」といい、雛人形を飾つてその子の将来を祝う。内裏雛(だいりびな)は、雛人形の典型になつたのは、幼女が成長して、よい結婚生活を送るよう願う心の現れである。

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	共貫	下段
15日	水	みづのえさる	六白	●下弦一時刻〇八分、京都嵯峨釈迦堂お松明		廿四	先勝	とる	箕	神よし
16日	木	みづのとみ	七赤	西宮広田神社例祭、一粒万倍日		廿五	友引	やぶる	斗	大みょう
17日	金	きのえいぬ	八白	不成就日		廿六	先負	あやぶ	牛	月とく
18日	土	きのとみ	九紫	彼岸入り、石川氣多大社おいで祭(23日迄)		廿七	佛滅	なる	女	母倉
19日	日	ひのえ	一白			廿八	大安	おさん	虚	母倉
20日	月	ひのと	二黒	上野動物園開園記念日		廿九	赤口	ひらく	危	大みょう
21日	火	つちのえとら	三碧	●春分の日、春分六時二四分、社日、彼岸中日、天しや、小つち、三隣亡、一粒万倍日		卅	先勝	とづ	室	よろづ
22日	水	つちのと	四緑	●朔二時二三分、NHK放送記念日、奈良法隆寺会式 旧閏二月小		朔	友引	たつ	壁	大みょう
23日	木	かえさる	五黄	世界気象デー、不成就日		二	先負	のぞく	奎	●
24日	金	かのとみ	六白	彼岸明け		三	佛滅	みつ	婁	十し
25日	土	みづのえうま	七赤	奈良薬師寺花会式(31日迄)、電気記念日		四	大安	たいら	胃	神よし
26日	日	みづのひつじ	八白			五	赤口	さだん	昂	天おん
27日	月	きのえさる	九紫	京都表千家利休忌、十方ぐれ入り		六	先勝	とる	畢	神よし
28日	火	きのとり	一白	京都裏千家利休忌、一粒万倍日、東京品川千体荒神大祭		七	友引	やぶる	觜	ぶく日
29日	水	ひのえいぬ	二黒	●上弦一時刻三二分		八	先負	あやぶ	参	五む日
30日	木	ひのと	三碧			九	佛滅	なる	井	大みょう
31日	金	つちのえ	四緑	不成就日		十	大安	おさん	鬼	母倉

【婚】婚礼の最も多い月のひとつである。ことに大安の日となれば、式場はスケジュールが完全にうまつていて、誰しもがよい日を選ぶのは当然であるが、婚礼は本人同士の誓いを中心に近親の承認と祝福を得れば十分。結婚披露宴は、大宴を張るよりも時間内にムードを盛り上げるよう工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「春分」を中心とした七日間は春のお彼岸である。真西に太陽が没するこの期間、西方に浄土があるという仏教の教えから、無欲悟道の対岸の域に一番近い日とされ、死者の冥福を祈り、仏供養、墓参りなどをする。

【祭】奈良東大寺の二月堂では、十三日未明に堂前の若狭井の水を汲んで加持を行う。これは厳しい戒律のもとに千数百年にわたって続けられているわが国有数の重要行事である。春分、秋分に最も近いつちのえの日を「社日」といい、農耕の神を祭る。社日の社は「示」と「土」から成り立ち、土の神の意味である。